

H25年度 第1回高知市地域アクションプランフォローアップ会議の概要

日時：9月2日（月）14:00～16:30

場所：高知県工業技術センター2階研修室

1 議事等

- (1) 産業振興計画関連 年間スケジュールについて
 - ・H25年度のスケジュールを説明

- (2) 地域アクションプランについて
 - 1) 第2期高知市地域アクションプランの進捗状況等について
 - ・上半期の進捗状況について説明

- (3) 産業成長戦略について
 - 1) 来年度以降の誘客戦略について説明
 - 2) 移住促進について説明

- (4) 産業振興センターの取組について
 - 産業振興センターの取組について説明

2 意見交換

<産業振興計画関連 年間スケジュールについて>

- ・特になし

<地域アクションプランについて>

- ・竹製ハンドルの取組について、どういういきさつで竹を素材として選んだのか。
→トヨタ側の環境面での方針。竹は再生が早いというイメージによるもの。3年位で、硬さ・大きさに適した竹が再育成する。ただ、竹林の中で適した個体は少なく、良い竹林を探すのに苦労している。

- ・高知おおとよ製材に関連してマスコミ等が森林に過大な評価をした結果、住民に誤解した想いが先走っている。不在地主の山が点在し、森林の境界すら分からず、過疎の地域住民・森林組合だけでは取組の限界がある。山の保全・管理には行政の協力が必要。
→境界明確化には行政も支援制度を用意しているが、森林組合と協議しながら管理しやすい体制を整えて進めていきたい。

- ・キュウリの選果施設を改修したが全面更新ではなく、老朽化した部分で大きな修繕費用が発生している。現状は県外メーカーに修繕対応をしてもらっているが、県内企業で対応ができるなら力添え願いたい。
- ・設備修繕の関係でも工業会にそれなりの企業が揃っているので相談させていただきたい。

- ・防災食の取組では、商品開発の過程でいろいろ難しい問題をクリアしながら、簡単なものから仕上げるように展開している。県外の防災展を見ると、高知県はそういう商品開発が遅れていると感じる。
- ・高知が舞台のドラマ・映画の影響で、県外バイヤーに高知の食材に対する高い評価・反応がある。一方で、商談があっても、数が揃わないことから見送りになることも。四方竹は加工食品として年間を通じた製造が可能になれば販路はある。
- ・みかんを使ったサイダーを作り始めたが、価格が高くて観光客の通るルートでは売れており、お土産としては伸びる可能性がある。また、県外・都会への出荷も重要と感じている。
- ・よさこい踊りを見ながら食事をするという東京でのイベントに接して感じるのは、高知人気は単においしい、面白いだけでなく、みんなを楽しくさせる魅力があり、観光面でも商品でもまだまだ伸びる可能性がある。
- ・同じ物を買っても、そこに行こうという動機でも、ブランドが確立されたものは強い。原宿スーパーよさこいで宣伝するとか、費用をかけてでも取り組むべき。
- ・よさこいサミットは全国のチームが来ている時期にしないと裾野が広がらない。よさこい祭りの期間はホテルが足りない状況なので、全国大会とよさこいサミットをセットで別の時期にするのも一案ではないか。その機会に相談会・商談会もやればまだまだよさこいを通してのブランド確立とお金の落ち方があるのではないか。
- ・県外チームは増えている一方、会社を休みづらいつらいつらとか練習場所がないとかの問題で県内の踊り子は減っている。県・市挙げてよさこいを応援しており、企業にも踊り子を応援するスローガンとかを刷り込んでいくべき。
- ・イベントなどで踊ってもらうチームへの依頼は、期間的に余裕を持って行うべき。
- ・子どもたちに向けた教材として正調よさこいがなく、エイサーやソーランを踊っている現状。今回有名なグリーンが楽曲を作ってくれたので、教育委員会に教材化をお願いしようと考えている。
- ・4月27日にオープンしたよさこい情報交流館は、9月1日で来館者が4万人を超えた。10月にはよさこい祭りの写真コンクールの写真展示をすることとしており、また、60回のよさこい祭りの映像を館内のシアターで3Dで見れるように作業を進めている。
- ・来年3月までは毎日曜日、はりまや橋商店街やこうち旅広場でもよさこい踊りを見れるように、よさこいのチームの協力を得て取り組んでいる。

<産業成長戦略について>

- ・ひろめ市場も土佐のおきゃくも、飲酒できない人にとってはただうるさいだけとか、特に女性からトイレがないとかの話がある。食空間にあわせてきれいなトイレなど環境整備が必要。
- ・よさこい祭りの際に、高知駅の踊り場の前のとさてらすでは、踊り子がスムーズに入れなかったとの苦情を聞いた。
- ・移住促進について、資料によると移住者1組あたりの人員が減り、徐々に単身化が進んでいるようにうかがえる。また、移住者は高齢者か、よさこい関連で若者がきているのか、そういった分析はできているのか。
→県が直接関わった移住者については年齢、移住前後のお住まいは把握している。

一方で市町村に聞いて確認した移住者は年齢層まで聞いていない。単身かどうかというのは分かっている部分があるのでまた報告できるように整理したい。

- ・高知市などの都市部圏への移住目的か、山間部・海岸部へかなど、移住される方の目的・考え方は異なる。それぞれの市町村が移住に取り組むにあたって、どういうプレゼンをしたらいいのか参考になると思う。
- ・各市町村で、移住を希望しての転入なのか、データが取れていないのが現状。県・市町村が協議して、そのデータを取る仕組みの検討が必要。
→異動届のときに簡単なアンケートをお願いするなど、市町村と連携しながら整理していきたい。
- ・よさこいをしたいと思って移住してくる人も確かにいるが、結局は職場が休みづらいとかで、ある時点で帰られる方も多。やはりよさこいを育てる、出しやすい雰囲気づくり、人を教えていくとか連動して動いていかないと、移住だけできたとしてもだめかなと思う。
- ・よさこい留学も、小学生が短期間こっちの学校に通いたいと希望したが難しかったと聞く。未来の高知県人を増やすという意味で緩やかにできないかと思う。
- ・よさこい祭りの時期が一番盛り上がる、ひとつのことに一生懸命になるので男も女も魅力的な時期。よさこい結婚も移住には大きくて、女性が高知で男性が県外からというパターンが結構ある。

<産業振興センターの取組について>

- ・特になし

■お問い合わせ先

高知県産業振興推進部計画推進課（地域担当）

電 話 088-823-9334

FAX 088-823-9255

メール 120801@ken.pref.kochi.lg.jp